

秘密基地を作ろう！

学校法人岩崎学園 くりの木幼稚園（千葉県柏市）

[5歳児]

秘密基地を作ろう

5歳児が、「秘密基地を作ろう！」と梅の木に大量のサツマイモの蔓を掛け始めた。「出来るだけ長いのがいいよ」「隙間がないように作ろう」と声を掛け合う。ところが蔓はコシがなく、空間が取れずに崩れてしまう。

展開

A児のアイデアで、竹をつっかえ棒のように、内側に差し入れてみると壁のように安定した。ところが、縦には強くなったが横にずれて倒れやすくなった。今度は横にも竹を渡して格子状に組んで縛った。「すごい！倒れなくなったよ」「秘密基地になってきたね」「ここでご飯とか食べられたらいいのにね」と喜ぶ。

みんなで入れる基地が作りたい

3歳児が「これ、お兄ちゃんが作ったの？すごいねー」と目を輝かせ、5歳児に羨望の眼差しを向ける。「入ってもいいよ」と誇らしげに誘うが、多めに入るとどうしても壊れてしまう。その都度直すのが、長持ちしないため、迷路遊びで使った大きな段ボールを見つけて作り直す。それぞれが自分の考えで組み立て始める。「こっちが入口ね」「こっちだよ。そっちはだめ」「部屋の真ん中に跨ぐのはいけないよ」「これじゃ狭いよ」意見はまとまらなくなってしまった。

展開

「ちょっと待って。設計図を書こうよ」というひと言に注目が集まる。「ここに壁を作ろう」「2つくらい部屋があるといいよね」相談しながら話が進むようになる。ガムテープを使って貼り付けていくと床や壁が出来てきた。

雨が降ってきた！どうしよう？

「段ボールが壊れちゃう！」「せっかく作ったのに」「段ボールを傘みたいに寄せたら大丈夫なんじゃない？」という声が上がって試してみるが、重さで崩れそうになる。「中が暗くなっちゃう！」「横から雨が来たら床がビショビショにならない？」などいろいろな意見が出て、基地を軒下に移動し、ブルーシートを掛ける。

展開

「青い(ブルーシート)掛けるとやっぱり暗くなるね」という子どもたちの意見に、担任が大きな透明ビニールがあることを知らせると、「これ屋根にしたら雨でも遊べるね」「大きさを測ってテープで留めよう」と屋根作りが始まる。

これからの秘密基地

軒下に移動したものの、雨に濡れて段ボールが崩れるのが悩みになってきた。「遊んでると楽しいから、ダメになったら捨てればいいんじゃない？」「雨に濡れない所でやればいいんだよ」「濡れない所ってどこ？」「段ボールだとグシャッとなって恰好悪いかな」「別の物で作るってこと？」など様々な意見が交わされた。

展開

卒園も近付き、「秘密基地でずっと遊びたい」という意見が大部分を占めるようになった。「段ボールは濡れるとダメだから硬いやつで作ったらいいよね」「鉄で作る？」「重くなっちゃうんじゃない？」「石で作るのは？」「石いっぱい集めて来るの大変だし崩れたらどうする？」「木で作るのはどう？」「いいねー」…子どもたちの話し合いの結果、遊び続けるにはしっかりした素材で作った方がいいということになり、その後、木材でみんなが入れる大きさの基地を作り上げていった。



みどころ

子どもたちが、戸外で「秘密基地を作りたい」という強い思いをもったことから、様々な問題にぶつかります。基地を作るための素材や広さ、雨の対策など、自分たちで問題を感じて解決方法を考え出し、展開しています。また、子どもたちの実現させたいという思いに保育者が寄り添い、時にヒントや援助の手を差し伸べることで、さらに子どもたちは“基地”に対する発想や、具体的な目当てをもって取り組んでいます。子どもが自ら問題解決していこうとする姿から、「科学する心」の育ちを把握することができます。